

平成 30 年度三朝大学
第 6 回「日帰り研修」日本遺産『生野銀山』
開催レポート

平成 30 年 10 月 18 日（木）三朝大学第 6 回「日帰り研修」を開講しました。
今回は、平成 29 年度に日本遺産に認定された兵庫県中央部の播但地域から生野銀山を訪問しました。



○まずは腹ごしらえ

三朝町役場を出発してバスに揺られること 3 時間弱、生野銀山に到着しました。
鉱山の見学に出発する前に、敷地内に設置されたレストランで腹ごしらえです。

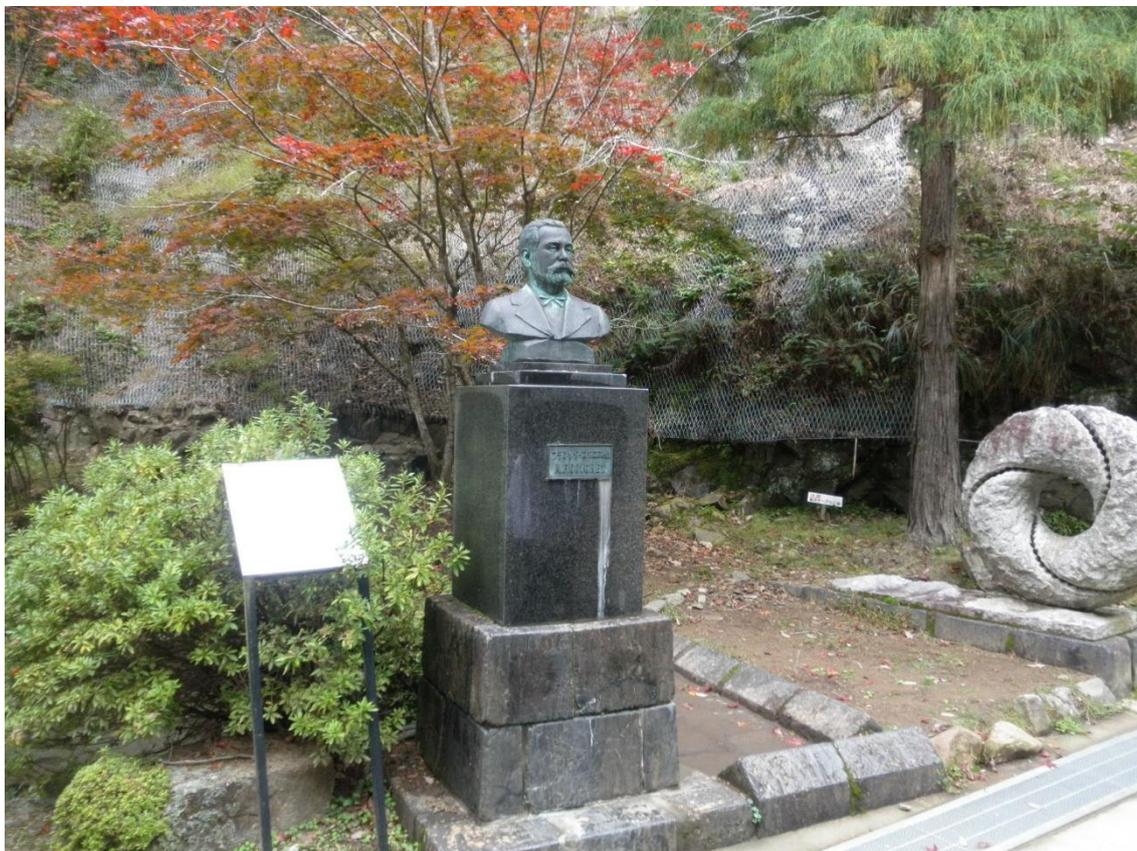


○生野銀山坑道へ道

食事が済んだらいよいよ生野銀山の坑道を見学します。
ボランティアガイドの方にご案内いただき、敷地内を進みます。



坑道の前では美しい不動滝を見ることができます。



こちらは、フランス人技師ジャン＝フランソワ・コワニエの胸像。
明治初期に生野銀山の経営の近代化を進めました。

〇いよいよ生野銀山坑道内



生野銀山は西暦 807 年に発見されたと伝えられ、室町時代の 1542 年頃に本格的な採掘がはじまり、織田信長や豊臣秀吉の時代を経て、江戸時代には幕府が「銀山奉行」を設置。その後「生野代官」が置かれ、やがて生野銀山は最盛期を迎えます。

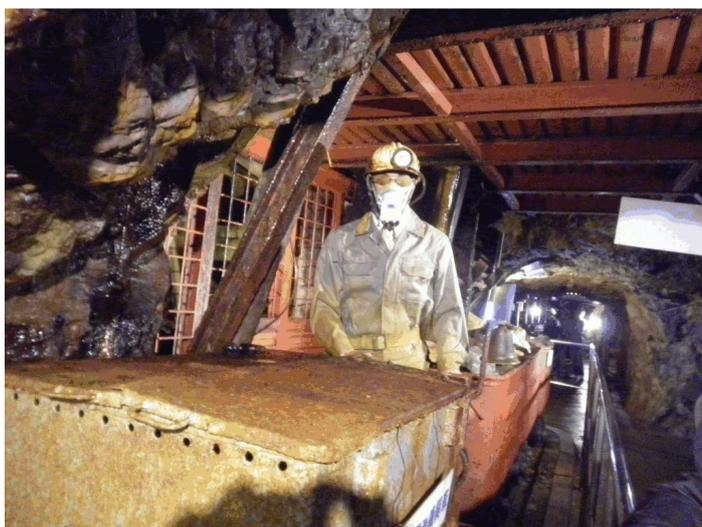
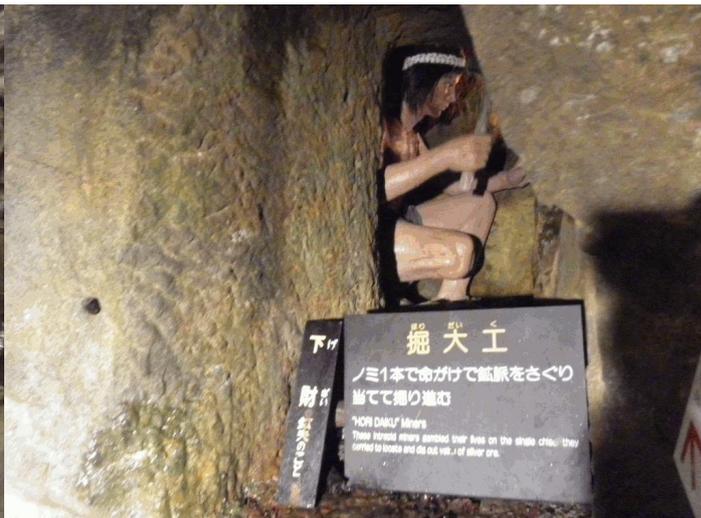
その後、明治時代には政府直轄となり、先に紹介したフランス人技師ジャン＝フランソワ・コワニエにより近代化が進められました。

その後さまざまな変遷を経て、昭和 48（1973）年に閉山となり長い歴史に幕を閉じました。



○超スーパー地下アイドル『GINZANBOYZ』

坑道内には生野銀山が採掘されていた当時の様子を再現した多くのマネキン人形が設置されています。彼らは、生野銀山をPRすべく超スーパー地下アイドル『GINZAN BOYZ』として活動中です。



○銀山の坑道はまだまだ続く

今回の見学では鉱山内およそ1kmのコースを見学しました。しかしながら、これは鉱山のほんの一端に過ぎず、その坑道の延長はおよそ350km、深さは880mにも及びます。



↑鉱山内を行き来する巨大なエレベーターの巻き上げ機



ボランティアガイドの方に鉱山内を説明してもらいました。

○次回の三朝大学

次回は11月14日（水）に『お出かけ講座2』と題しまして、町内にある国際的研究施設『岡山大学惑星物質研究所』を訪問します。